

2021年
6月02日号
NO 1号



じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

OYA OYA 通信

学びのホームグラウンド じんけん楽習



6月2日のじんけん楽習塾は「クロスロードダイバーシティ編 ～カードゲームで多様な価値観に触れてみよう～」がテーマです。講師は木村知佐子さん（株式会社 ICB パートナーコンサルタント/合同会社 WLBC 関西 執行役員）です。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言により、ZOOMによるオンライン配信のみになります。

今後のじんけん楽習塾の会場での参加は、情勢を見ながら判断したいと思います。なお、会場の安中人権コミュニティセンターが使用可能になりましたら、会場参加者は20名以内になります。必ず、申し込みください。

みんなのふりかえり | 回目 5 / 19



森実さん（じんけん楽習塾・大阪教育大）の回

テーマ

現代的リテラシーの課題を考える

ー大阪の識字・日本語学習運動とわたしたちー

■識字教室という制度は昔の方で読み書きができない方の為に作られ、今は外国の方にも日本語を教える場

所（識字教室）と活躍をしている制度なので、これから先もずっとあり続けてほしいです。そのためには今はボランティアの方に頼っているだけではなく、行政（国）が識字教室をしっかりと理解し広げていって欲しいと思いました。後、研修資料の中に昔の方が識字教室で学んでいる写真や今、識字教室で学んでいる方の写真などが有れば見たいと思いました。

■今までは、構造の中にいる自分にはあまり実感のなかった「梯子」が、このコロナ禍で、くっきりとしてきたように感じます。高校の進学クラスを見てみると、手をつなぎ、集団が集団としての力を持てなければ、学力の向上には限界がきてしまうと実感しています。「底」の集団にかかわらず、「例外」「トップ」の層にとっても同じではないでしょうか。また、それは、安心して学べる環境を作ることであり、学びの楽しさを作ることとも言えると思います。偏差値UPのためには、遠まわりで時間と労力はかかりますが、集団をつくることは欠かせないです。すると、「梯子」が太くなるのではと思います。(ke-ko)

■今年も楽しみにして、家族を誘って参加しました。現代社会の構造やハシゴのイラストは以前も紹介してもらったはずなのに、今回は特にインパクトを感じました。トップの支配階層とボトムの格差、ボトムの分断などはコロナ禍のいまは浮き彫りになっているなあと思いました。グループワークの中で親ガチャ=親の当たり外れの意味という言葉があるのを初めて知りました。識字などの日本語学習の実態もまだまだ不十分で深刻であることを初めて知り、ほんとと驚きでした。自分もふくめて、知らないことで無意識に差別してしまうことってあるので、まずは学習会したりお互い共有して語り合う場は、ほんとに大切だなあとしみじみ感じました。これからのテーマも楽しみです。(中谷弘子)

■梯子を上る（目標ばかり見上げている）学習なのか、横につながっていく学習なのか…普遍的なテーマだなあと改めて思いました。個人的には、日本語能力検定のクリアが目標なら日本語学校に行けばいい…とか、はっきりそこに目標がある学習者にはそういう講座を企業なり国なりで保障されるべきだと思っています。地域の教室は「気軽に通える」「地域の人と知り合う」場としての無償の教室であって、キャリアアップのためではないはず…。とはいえ、とんだばやし国流の日本語教室にも、中小企業団地や農家の技能実習生が通っています（実習団体には国流の団体会員になってもらってはいますが）。こちらとしては、せっかく日本で来たのに職場しか知らないで過ごすなんて悲しいし、つながりたいので受け入れるのはやぶさかでないものの、なんか筋が違うよなあと思うところ

オンライン参加のみなさんへ

- 研修参加の際は、必ず映像はオンの状態で願います。(休憩中はオフでも大丈夫です。)
- 研修参加の際は、こちらが指示するまでマイクはミュートでの参加をお願いします。
- ZOOMに入室できない等でお困りの時は 八尾市人権協会 072-924-9853 にお電話ください。
- ZOOMに入室できた後の連絡は、ホスト(事務局)あてチャット機能をお使いください。

の課題を、改めて考えました。ありがとうございました。



■ZOOMでの楽習塾は、初めての体験で楽しかったです。まさしく現代のリテラシーだなと感じながら楽習塾を受けさせていただきました。

今回の楽習塾の内容が『現代的リテラシーの課題を考えるー大阪の識字・日本語学習運動とわたしたちー』ということで、私も若干ながらよみかき教室に関わらせていただき、以前は日本語学習にも関わらせていただいていた。よみかき教室は「学習者の学びの場」以上に支援者（講師陣）の学びであると言われてきました。地域のおっちゃん・おばちゃんたちが歩んできた人生（生い立ち）を支援者（講師陣）が受け止め学べる場でもあります。これからも、よみかき教室に関われたらなと感じています。（しんのすけ）

■「安心して語りあえる場所」で自身の体験や生い立ちを振り返ることで、同じ負い目や枠に苦しんでいる人たちとつながり、ともに自信や希望を持って自らを解放していく。語りあっていくうちに資格を取る話が出てきて、「ハシゴ」を登る方向に進むこともできる。当事者グループ（不登校、ひきこもり、それぞれの親の会など）でしていることはまさにそれです。他の様々な人権課題においても同じではないでしょうか。今日のグループワークでは、識字教室で人権学習を取り入れるのはなかなか難しいのではという話になりましたが、森先生の実践を伺って、いつでも工夫次第で豊かな学びができるのだと知りました。他にもグループで、「コミュニケーションカード」という語り合いのきっかけ作りのツール情報を頂けました。

（cherin）

■八尾市では特別定額給付金の情報発信として、申請方法などを多言語情報誌、市HPで掲載したり、外国人相談窓口につながるようにしていました。また、未申請の方に再度案内を送る際は、英語・中国語・ベトナム語にやさしい日本語を併記した案内チラシを同封しました。結果、日本人よりも申請率を高くすることができましたが、今回、日本語能力がある方でも、特別定額給付金を知らなかったという話を聞き、改めて情報を伝えることの難しさを感じました。

■識字教室での課題は、学ぶ場である学校の教室での課題とつながる部分がありました。登るための学習では、登れない子、登らない子が置いて行かれます。そうならないよう「人権を守る教室」を保障していくには、おとなも子どもも、いろんな立場のすべての人のことを考える基盤をつくる必要があると思いまし

た。教室という社会なかで、子どもたちに重い石を背負わせる体験をさせるのではなく、みんなと勉強してよかった、自分の居場所がここがあると実感できる教室にしていきたいです。

■はしごを登るためことから早々に挫折したけれど、そのおかげで識字をはじめ様々なボランティア活動で人とつながるための学びに移れたのは幸いでした。日常的に差別的言動に出合った時、傍観者にならないための学びが今後も必要です。（立石）

■森先生の話にあった、はしごの話聞きながら、自分の今の子どもたちとの関わりを見直すきっかけとなりました。気になる子の話をさせていただいて、コメントをいただくことで、新たな気づきを得ることができました。また、読み書きの集いで差別的発言の事象から、他の学習者さんやボランティアさんの中には、ドキドキしておられる方や「あ、守ってくれへんねや。」と思っている方もいたかもしれないと想像したり、もし自分の所属している場所で起こったら…と考えたりする中で、「言うてはいけない」ではなく、なぜダメなのか、どんな学習や出会いが必要なのか、また、自分自身も常に感覚をアップデートし続けたいと思いませんでした。

■今回紹介された差別事象について、改めて考えることができよかったです。差別事象は起こって欲しくありませんが、学ぶきっかけ、考えるきっかけになるので、こういった形で改めていろんな立場の人と考えることができよかったです。識字の現場に関わっている人たちとこういう学習ができていないので、集まって学習できるようになれば是非やろうと思いました。森さん、ありがとうございます。

また、最後の発言で大川さんやぼんみさんが話されていたように差別発言や差別的な事柄は識字に限らず日常生活で残念ながら起こっています。自分自身が差別につながるような発言・行動になっていないかはもちろんですが、そのような場面に遭遇したとき、周りの空気に流されずどのように伝えられるか準備（たまこめる）が日頃から必要だと感じています。実際自分も、差別発言に直面したとき、苦しくなって言葉を発することができなくなって、後々さらに苦しくなりました。あんまり参加できていませんが、じんけん楽習会そのたまをこめることにつながっています。ありがとうございました。（すがわらちえみ）

OYA OYA 川柳

さべつへの たまをこめるば がくしゅうじゅ

連絡

毎回ふりかえり用紙をくばります。オンラインの場合はファイルを送ります。後でメールファックスでもいいので送ってください。お願いします。通信に反映させたいと思います。（公開だめなものはオープンにしません）

写真を撮影しますが、OYA OYA 通信、八尾市人権協会のホームページなどで使用する場合があります。なるべく個人が特定しにくいものと考えていますが、困るという方は事務局に申しつけてください。